



NIPPON BEARING

## 7月30日付 日本経済新聞広告 回答と解説

【問題】 自動車のベアリングが1年間で節約する原油の量は？

- ① バケツ 200 杯分    ② ドラム缶 200 本分    ③ 50mプール 200 杯分

【答え】 ③50mプール 200 杯分

【解説】

なんと！50mプール約 200 杯分（正確には 192 杯分）！！

ベアリング（転がり軸受）による省エネルギー量は、日本国内の自動車1年間だけでも、原油換算で 48 万 kℓ にもなります。

ドラム缶に換算すると 240 万個！ 多すぎて想像しにくい数ですね。

省エネルギー効果は走行条件によっても異なりますが、自動車に転がり軸受が使われず、滑り軸受だけが使われた場合と比べて、最低でも上記の省エネルギー効果があると計算されています。

日本の1世帯当たりの年間エネルギー消費量が約 2.2kℓ（原油換算）とされていますので、自動車の省エネルギー量だけで約 22 万世帯の年間エネルギーをまかなえる換算です。

自動車のみならず、様々な機器に使用されているベアリング。

摩擦を軽減する方法として、潤滑剤だけに頼る『滑り』から、ころ（またはボール）を利用した『転がり』へと進化した結果、飛躍的に省エネルギー効果が増しました。

すごい活躍をしているにも関わらず主張をしないベアリングは、縁の下の力持ちとして、日々、私たちの生活を支えてくれている存在なのです。

【企画・協力：(株)学研エデュケーショナル】